

国民年金付加年金制度とは

国民年金の一般保険料に加えて付加保険料(月々400円)を納めると老齢基礎年金に付加年金が上乘せされます。

付加年金の年金額は、200円×付加保険料納付月数となります。

お手続き

申し込み用紙に必要事項を記入して、役場住民課または岐阜南年金事務所にご提出ください。

留意点

- 付加保険料の納期限は、翌月末日です。
- 納期限を経過した場合でも、期限から2年間は付加保険料を納めることができます。
- 付加保険料の納付をやめたいときは付加保険料納付辞退申出書の提出が必要です。
- 国民年金基金に加入している方は付加保険料を納めることはできません。

教育委員会だより

ふるさとを愛する人に

羽島郡二町教育委員会 ☎245-1133

先日、「昔の町 ボクたちの町」という冊子を手に入りました。平成7年に93歳で亡くなられた小川春人さん(笠松町)が昭和の末に発行された「手書き本」を復刻発行したものです。趣味のイラストタッチの絵を添えて、子どものころの思い出が素朴に綴られています。

この冊子の2ページ目に、小川さんはこう記しています。

「笠松!! この小さい町を ボクたちは子どものころから 心から愛して 育ってきました…」

小川さんが自分の生まれ育った町を、人を、景色を愛おしく思っていたことがまっすぐに伝わってきます。今の子どもたちにも、こんなふうに分かる町を大好きになってもらいたいと思いました。では、どうすれば自分の町を心から愛して育つことができるのでしょうか。小川さんのイラストからは、実によく町の風景を見てきたことが分かります。言い換えると、子どものころに家の外に出て地域をかけまわっていたのだと思います。また、冊子には地域の行事の思い出も記されています。子どもたちが地域の行事を楽しみにして、自然に参加していたことが分かります。そして、地域の人とのエピソードも紹介されています。地域の行事に参加したり、地域の人とかかわったりする中で、住んでいる地域をふるさとと認識し、ふるさとを愛する心が育ったのだと思いました。現在の子どもたちはどうでしょう。子どもの数が減ってしまい、地域で行われていた行事が減ってしまった現実があります。また、価値観の多様化から(これは大人もですが)地域行事に参加することなく過ごしている子どもたちもいます。また、安全に配慮するあまり、地域の人でも顔見知りでないといさつを交わせない状況もあるようです。

今の時代、小川さんの子どものころの生活をなぞるような経験はできません。しかし、地域の中で地域の人とかかわり合いながら生活すれば、必ず自分の町をふるさとと認識し、大好きな町になるのではないのでしょうか。地域で人と人がつながる機会は多くあります。あいさつ運動や、夏休みのラジオ体操は、地域の人と小中学生とが顔見知りになるよい機会です。町民運動会や町内の清掃活動に参加して、顔見知りの子どもと大人があいさつを交わすことができれば、距離はぐっと縮まります。人と人がつながるチャンスを大切にして、子どもたちのふるさとへの愛着を育てていけば、きっと自分の町が大好きな人へと成長するでしょう。